

4/21『キリストがよみがえられたように、私たちもよみがえる』 (Iコリント15:20~22)

長谷川 望 牧師

- *イースターはイエス・キリストがよみがえられたことを覚えてお祝いする教会の記念日。イエス・キリストは金曜日の朝十字架につけられ、死んで墓に葬られた。そして三日目に、すなわち日曜日の朝によみがえられた。墓が空っぽであったことは、よみがえられたことの一つの証明だが、最も重要な証明は多くの弟子たちが復活のイエスに出会ったことである。12弟子を初め、パウロも復活のイエスに出会ったからこそ、福音を命がけて伝えていったのである。
- *私たちがイエスのよみがえり、死者のよみがえりを信じることができるためには、旧聖書・新約聖書 66 巻はすべて間違いがなく、真実、事実が書かれている。嘘、偽り、作り話がないということを知ること。その聖書に復活のことが詳しく書かれているのだから、信じないわけにはいかない。もう一つは、神にできないことはないということ。勝手に息を吹き返したのでもなく、自分からよみがえったわけではない。神が意志をもってよみがえらせたのである。
- *主イエスのよみがえりの意味。
 1. キリストは死に打ち勝ち、死を超えた方あり、神の御子であることがはっきりした。
 2. キリストは今も生きていきとおられる。今も私たちを守り、養ってくださっている。
 3. 私たちもキリストのような姿によみがえる。しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。(Iコリント15:20)「初穂」は最初の収穫。神にささげられるものであるが、初穂をささげると後のすべての収穫が聖められるという意味がある。キリストが最初に復活され、死んだ者がよみがえり、私たちもキリストに続いて、キリストと同じような姿によみがえることが約束されている。というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。(15:21) 罪がアダムに入り、私たちは一人残らず罪を犯す人間となり、死を免れない存在となった。しかし、それを救うために来られた方がキリストである。「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」(ピリピ3:20~21)キリストが再び来られるとき、キリストを信じている私たちはキリストと同じ栄光の姿に変えられて、主とともに永遠に生きる。救いの完成を待ち望みながら生きたい。